

団体名	NPO法人 チャリティーサンタ	活動タイトル	困窮家庭へ家庭行事をきっかけに社会全体で支え合う仕組みづくり						
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景						
●地域の望ましい社会状況（ビジョン）	社会全体で子どもたちを支え、子ども時代に自己肯定感を育む体験が、環境などの要因に関係なくの子にも権利として与えられていること。		 <p>2019年度 サンタクロース訪問の様子</p>						
●団体の社会的役割（ミッション）	<p>経済的困難な状態にある家庭の子どもを対象としてクリスマスにプレゼントやメッセージを届け、自己肯定感や社会との連帯感の醸成に寄与する。この主旨に賛同する企業・団体を対象として相互理解を深め、包括的・継続的な支援体制づくりにつなげていくことで「社会全体で経済的困難な子どもたちを支える」機運を高める。</p> <p>「経済的困難」を生み出す原因や背景はケースごとに異なるため、中期的には当団体の活動を入り口とし、様々な社会資源に結びつける役割を担う。そのため、できるかぎり多くの市民の理解と参加のもとで経済的困難の解消に向けた取組を展開するための一体感を醸成する必要がある。そのため、団体としては支援対象者とニーズがマッチする団体への橋渡しをできるような存在になることを目標とする。</p>								
●団体の活動基盤	<p>今回の事業を通じ、「貧困家庭の子どもへの思い出づくり支援」に対して世間の認知度を高めるとともに、関わるボランティアの拡充をめざす。</p> <p>子育て家庭において年間行事としての重要度が最も高く、一般認知度も高いクリスマスを「すべての子どもが平等に夢を見られる日」としてメディアなどにも目が留まりやすいキャンペーンを実施することで、社会全体として子どもの貧困への働きかける新しい動きを生み出し、仕組みにしてい。その際、事業の成果をしっかりと持たせ、施策化に向けて動くとともに、ソーシャルインパクトを発信し、寄付や資源の拡充に努める。</p>								
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況							
<p>①子どもたちに対して体験による自己肯定感を育む事業</p> <p>クリスマスにサンタクロースに扮したボランティアが経済的困難な家庭に訪問し、無償で「思い出（経験）」と「プレゼント」を届けるチャリティー活動を実施。経済的困難な家庭で準備がしにくい家族の思い出や時間を提供することで、子どもの自己肯定感を育む活動を行った。（受益者数：585家庭,747名）</p> <p>②経済的困窮家庭へのアウトリーチと支援情報の提供</p> <p>また支援団体に加入、行政と協働事業を実施する上で、岡山市では児童扶養手当受給世帯に対して広報を行うことで、対象世帯（3歳～9歳の子どもをもつ家庭）約20%にクリスマスの思い出を届けることができた。</p> <p>③経済的困窮家庭の支援に関心を持つ企業や団体などの地域資源を発掘し、支援を必要とする家庭に情報が届く仕組みづくり</p> <p>連携するブックサンタ（書店で絵本・児童書を購入寄付できる仕組み）も全国展開することができた。支援の行き届いていない家庭への入り口とし、現在、他団体や企業と連携し、支援を必要とする家庭に情報が届くように継続して事業を運営。年間を通じて家庭の自己肯定感に寄与する活動を行った。</p>		<p>クリスマス時期の思い出支援については、連携団体の枠をひろげ、自分たちの手では届かない困難な家庭への支援が広がった一年となった。</p> <p>また、ブックサンタをはじめとして、大きく企業参加が広がることができたため、全国的に寄付文化と課題や課題解決についての啓発についても拡がりをみせることができた。</p> <p>クリスマスをきっかけに家庭を社会資源につなげていく取り組みに関しても、現在、モデル地域（岡山市）を中心に実施することで、現在も継続して家庭に働きかけている。</p> <p>なかには、「チャリティーサンタさんの存在に精神的に救われています。具体的な支援がなくとも見守って下さっている存在があるということが生きる支えになっています。」といった声も届いており、家庭への繋がりを持ち、情報を届けることの意味を感じることができる1年となった。</p>			 <p>クリスマス後の家庭への体験機会の提供</p>				
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題							
<p>●行政との協働や家庭への情報配信</p> <p>行政との協働により、家庭にダイレクトに情報を届けることができ、他の支援情報に繋がっていない家庭にアプローチをすることができた。また困窮世帯への情報提供を行なった際に、感謝の声が多く寄せられ、情報提供に対する必要性や需要を確認することができた。困窮家庭への情報提供について市の施策化にもつながる事例をつくることができたとともに、家庭の掘り起こしに繋げていくことができた。</p> <p>●全国規模での支援体制（担当）の定着とボランティアマネジメントについて</p> <p>困窮家庭へのクリスマス事業について、各エリアごとの担当者の決定と取り組みに伴う説明会の段階をいくつかかわけ、コミュニケーションの仕方を増やした。ボランティアによって濃淡はあるものの、必要最低限のコミュニケーションやボランティアマネジメントの体制をもつことができた。</p>		<p>クリスマスはまだ他の支援に繋がっていない家庭へのアプローチになりうると考えている。また寄付などの支援者層の行動を促す力もあると考えている。一方、私たちの「クリスマスを入り口とし、年間の活動につなげていく」というイメージはまだ薄い状態にある。そのため、事務局は家庭の支援ニーズをしっかりと数字などで確認しながら、連携する団体・企業との連携を強化することで、今より広く、より困窮家庭を支える基盤を作っていくことが必要となる。</p> <p>また現在のモデル地域（岡山市）における取り組みを全国に波及させていくためには、それに伴う人材育成やスタッフの確保が必要となる。</p> <p>全てのボランティアスタッフに一律に取り組みを波及させることは難しいため、現在試験的に関心の高い支部のスタッフに対して段階的に働きかけを行っていく必要がある。</p> <p>今後は、事務局の組織基盤の強化とともに、事業の発展と波及に努めていく。</p>			<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <table border="1" data-bbox="1491 1185 2166 1337"> <tr> <td data-bbox="1491 1185 1630 1337">この1年間の活動を通じて</td> <td data-bbox="1630 1185 2002 1337">・行政との協働により、必要な層への働きかけ ・年間を通じた子どもたちへの支援のスタート</td> <td data-bbox="2002 1185 2166 1337">を達成しました。</td> </tr> </table> <p>■ 受益者の具体的な変化（効果測定結果等）</p> <p>応募動機では「生活の苦勞」、「子どもにたくさん我慢をさせている（キーワード検索で我慢は43件）」、「せめてクリスマスだけでも楽しく過ごしたい」という声が多くあがった。サンタ体験に関しては「これからの心の支えになる体験」としてとらえている家庭もあり、親子の心に寄り添った活動を今後も継続的に実施していく。</p>		この1年間の活動を通じて	・行政との協働により、必要な層への働きかけ ・年間を通じた子どもたちへの支援のスタート	を達成しました。
この1年間の活動を通じて	・行政との協働により、必要な層への働きかけ ・年間を通じた子どもたちへの支援のスタート	を達成しました。							